



平成27年6月12日
国土交通省中部地方整備局
名古屋港湾事務所

名古屋港で働く人々との出会いを通して自分の生き方を考える ～三重県桑名市の中学2年生6名が職場訪問～

■概要

平成27年6月9日(火)、三重県桑名市の中学2年生6名が、働く人々との出会いを通して自分の生き方を考えるため、中部地方整備局名古屋港湾事務所を訪れました。

生徒達は、職員に仕事のやりがいや苦勞について質問し、職員の説明に熱心にメモを取っていました。海をきれいにするため、ゴミを回収している海洋環境整備船「白龍」を見学した際には、ゴミ回収のデモンストレーションとして、海上を漂流するゴミをすくい取るスキッパーと呼ばれる大きなカゴの動く様子や、多関節クレーンを使って流木を切断する様子等を間近に見ながら、船長からの説明に耳を傾けていました。

その後、港湾業務艇「翔龍」に乗船し、名古屋港内を見学しながら、港の役割や施設について学びました。港に必要な航路を掘る「浚渫」という仕事について説明を受けた後、実際に仕事をしている浚渫兼油回収船「清龍丸」に近づき、航路を掘る機械や油回収装置を間近で見学し、貴重な体験に驚きを隠せない様子でした。

生徒達にとって、今回の活動を通じて、働く人から社会に出て働くことの意義や、必要なことについて直接聞く事は、自分の生き方を考える上で良い機会となったのではないのでしょうか。

■職場訪問（校外）学習の様子（別紙1）

■参考資料 白龍概要（別紙2）、清龍丸概要（別紙3）

■配布先 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾新聞、港湾空港タイムズ、日本海事新聞、海事プレス

■問合せ先

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所

企画調整課 板生(いたお) TEL 052-651-6763 FAX 052-652-0303

■ 職場訪問（校外）学習の様子



職員の説明に熱心にメモを取る様子



「白龍」にてスキッパー見学の様子③



海洋環境整備船「白龍」見学の様子①



「白龍」にて多関節クレーン見学の様子④



「白龍」見学の様子②



名古屋港見学の様子①



名古屋港見学の様子②



名古屋港見学の様子③

海洋環境整備船 「白龍」の概要

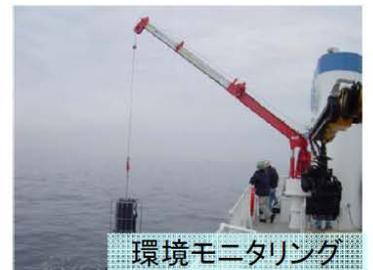
「白龍」の行う業務

- 通常は、伊勢湾・三河湾の海面浮遊ゴミの回収作業。
- 油流出時には、速やかに流出現場に向かい油回収作業。
- 伊勢湾の環境メカニズム解明のために、水質及び底質の定期的な観測を実施。
- 大規模地震・津波発生時の航路啓開。



「白龍」の諸元

- 所属
中部地方整備局
名古屋港湾事務所
- 基地港
名古屋港 四号地岸壁
- 全長、全幅、総トン数
33.5m、11.6m、198t
- 最大速度
15.1kt (約28km/h)
- 担務海域
伊勢湾・三河湾 (1,800km²)
(港湾区域及び漁港区域等の指定区域を除く)



東日本大震災における災害 支援(海上漂流物の除去) (平成23年4月23日～5月19日)

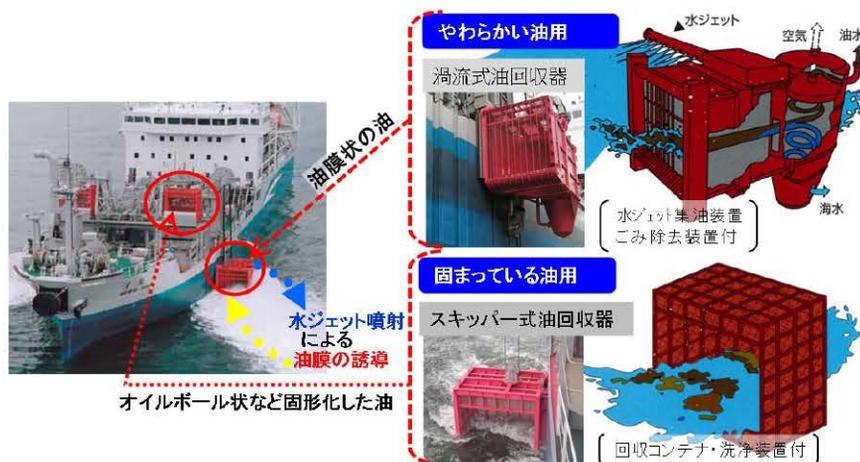
- 海上物流拠点の仙台塩釜港及び石巻港を有する仙台湾周辺海域において、航行船舶の安全を図るため津波により発生した大量の漂流物を回収。
- 漂流物回収量【239.1m³】



浚渫兼油回収船「清龍丸」の概要

「清龍丸」の行う業務

- 通常は、航路、泊地等の浚渫作業。
 - ・高精度で平坦浚渫を可能とする幅広な新型ドラグヘッドを装備。
- 大量油流出時には、速やかに流出現場に向かい、油回収作業。
 - ・油の状況に応じた2種類の回収器を装備。
- 災害時には、災害支援作業（災害情報収集、救援物資輸送、給水、電力供給等）。
 - ・情報収集・発信のための通信システムや防災要員・物資運搬等のためのヘリデッキを装備。



油回収タンクに約1時間で1,000kl (ドラム缶約5千本分)の油水を回収可能。